



東京の会通信

No.259

2015年3月1日号
(隔月1日発行)

発行：公的骨髓バンクを
支援する東京の会

〒162-0065 東京都新宿区

住吉町10-8 第1菊池ビル302号

TEL：03-3354-6377

(FAX兼用)



<http://www.marrow.or.jp/tokyo/>

e-mail:marrow_tokyo@yahoo.co.jp

定価 100 円

ドナー奨励制度の4月実施をめざして 東京特別区長会、東京市長会、東京町村長会に要請

昨年12月都議会で、東京の会が提出した「骨髓移植ドナーに対する制度創設に関する請願」が全会一致で採択されました。これを受けて、2月5日に東京市長会と東京町村長会、2月10日に東京特別区長会を訪問し、27年度のドナー奨励制度実施に向けた要請を行いました。

いずれの会も、事務局対応で短時間の要請になりましたが、要請書の他に都議会からの通知書、骨髓バンクのデータ、東京の会通信等を資料として提出し、説明しました。

私たちの説明を受けて、それぞれの事務局から、骨髓移植の現状、要する費用、稲城市で実施されている制度を基礎にした場合の質問等が出され、熱心な質疑が交わされました。

結論としては、三つの会とも「すでに、予算の確定期に入っており、盛り込むことには少し難しさがある」

と言いつつも、「要請内容は会にお伝えします」との返答でした。また、「東京都にはしっかりと働きかけていただきたい」との要望も出されました。

2月10日は、区長会への要請後、都庁の疾病対策課を訪問し、都議会の決議に基づく実務の進捗状況を質問したところ「主体は区市町村であり、稲城は助成対象になるが、具体的なことは策定中で公表できる段階ではない。3月末頃には決まる」との返答でしたので、その時期に改めて訪問することになりました。

区長会、市長会、町村会とも、多忙中にもかかわらず、早く要請を受けていただいたことに感謝します。2月5日は大粒の雪が降り、2月10日は、今冬一番寒い日でした。両日とも、三瓶代表、新田顧問が参加しました。

皆さん、27年度のドナー奨励制度実施をめざして、みんなで見守っていきましょう。（代表 三瓶和義）

全国協議会『設立25周年事業』のご案内

まだ日本には存在していなかった、公的骨髓バンク設立を目指して全国各地で運動していた12地域の代表・患者・家族・提供ボランティアなど約50人が参加して、1990年6月24日に全国協議会の設立総会が開催されました。今年はそれから25周年の節目の年。これを記念して、設立25周年を祝う記念事業を1年間に亘り開催します。東京の会でもこの記念事業に積極的に参加し、意義深い1年となるよう協力しましょう。

◎「全国ボランティアの集い／造血細胞移植・25年のあゆみ」

◎「国際シンポジウム／アジア地域における造血細胞移植の現状と国際協力の展望」

◆5月30日（土）9：30 早稲田大学井深大ホール（国際会議室）

※2つのイベントをギュッと押込み1日で開催します。誰でも無料で参加できる、年に一度のイベント。

◎「日本縦断キャラバン」（トヨタ自動車提供の「ノア・ハイブリッド車」がキャラバンカー）

◆4月24日（金）沖縄県那覇 出発式 世界遺産・首里城前から出発か？ 2ヶ月の長旅の始まり！

◆6月28日（日）北海道札幌 完走式 47都道府県をすべて回り、全国のボランティアの思いが一つに！

※1台の車をドナーが運転して国内全都道府県を回り、血液センターを表敬訪問します。

◆5月30日（土）～6月1日（月）東京にキャラバンカーが滞在する期間

※この間の東京都内でのイベントを企画します。血液センターや献血ルームへの表敬訪問、ドナー登録呼び掛け、記念植樹場所への確認訪問 等

東京の会の皆さん、今から予定を空けておいてくださいね！

今年の箱根は寒かった!箱根駅伝に「新・山の神」誕生!

沿道でのチラシ配りと募金活動でのぼりがはためく!

往路 宮ノ下での活動に参加して

箱根駅伝スタートの前日、1月1日に東京の会より選ばれし3人組(大谷巻枝ママ、大塚礼子さん、竹崎)はロマンスカーで箱根を目指しました。箱根湯本に近づくにつれ雪が吹雪となり、明日のレースが心配になりました。

当日は温泉で体調を整え、万全の準備をして宮ノ下に着きましたが、駅から下り坂がアイスパーンになっており、転げ落ちないように慎重にゆっくり歩いて9時30分には現地到着。毎年応援に来ているので地元の方々と顔なじみです。チャリティーとして無料で配られるシチューパンの行列にチラシを配って募金を呼びかけ、忙しく動き回りました。

毎年ご家族で参加して下さる志村さんご家族もお見えになって、今年は甥子さんで下の弟さんが見えて寒い中大きな声を出して募金を呼び掛けて下さいました。

600個のシチューパンも無くなり、選手が到着する頃には花火が打ちあがり、沿道を埋める応援の方々の選手の名前コールの練習が始まりました。青山学院大学の神野大地選手が1位通過するのを、大盛り上がりの中、一丸となって応援しました。

宿に帰ってからレース全体の流れを見て、全コースを通して骨髓バンクの幟がテレビに映っていて嬉しかったです。翌日は湯本駅前で、観光客と一緒に初めて復路の選手の応援を楽しみました。



日本骨髓バンクの登録患者と検査済登録ドナー
(平成27年1月末日現在)

	ドナー(全国)	ドナー(東京)	患者(全国)
登録者累計	449,856	57,287	43,984
12-1月登録分	4,484	300	496
12-1月抹消数	4,086	478	—
実質登録増	398	▲178	—



今年は3人で2泊の活動でしたが、来年もまた前泊してボランティアだけでなく応援も楽しめるように、余裕を持った計画にしたいと思いますので、参加する人は早目に打ち合わせしましょう。(竹崎 恵子)

復路 三田5丁目での沿道応援に参加して

1月3日に第10区(第一京浜と日比谷通り交差点)で応援に参加させて頂きました。今年も沿道で選手を応援する人々に「あけましておめでとうございます、日本骨髓バンクです!」とキティーちゃんティッシュに綴じたリーフレットをお渡しすると、たくさんの笑顔が返って来ました。

写真に選手とノボリと一緒に納めたい理由もあって、日比谷通りの向かい側で活動をしていたのですが、逆光によって浮き立つノボリと「頑張れ!」という力強い声援は、選手と患者さんに響いていると感じました。

終了後には、埼玉・千葉・神奈川・東京の応援ボランティア一同で集合写真を撮る慣習があるのですが、毎年同じ場所で応援をしている日体大の応援団と自然に生まれた交流でしょうか「こっちは骨髓さん」と場所を譲ってもらえる迄になりました。13年間も続けていただいている皆さま方の実績に感謝しています。これからもより多くの若い方々に、骨髓バンクを知って頂きたいと願っています。(鳥羽 雅行)

患者とドナー登録・適合状況(1月末日現在)

ドナー登録受付者数(累計)	631,014人
ドナー登録抹消者数(累計)	181,158人
HLA適合報告ドナー数(累計)	237,157人
実質登録患者実数(現在)	2,674人(国内1,453人)
HLA適合患者数(累計)	35,383人(患者累計数の80.4%)
非血縁移植実施数	17,844例(12-1月実施202例)

「説明員研修会」に参加しました

日本骨髓バンクで説明員資格を持つボランティアを対象に、「平成26年度説明員研修会」が、全国7会場で開催される予定であり、2月7日の東京会場に参加しました。当日は、日本教育会館会議室に関東近郊より85名の説明員が集まりました。

プログラムの始めは、『「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」施行後の状況について』の説明でした。法施行後の事業の許可や定款の変更、委員会や体制の整備などすでに承知している内容の説明で、特に特筆するような目新しい進展は報告されませんでした。私たちの関心は、骨髓バンクと支援団体である日赤との関係がどのように変革していくかであり、骨髓ドナー登録の積極的な推進について、日赤がどこまで踏み込んでくれるかが興味と関心の中心です。しかし「支援機関（日本赤十字社）への協力依頼」の項目は現在協議中との報告にとどまり、「献血ルーム等での広報資材の掲示、配布（決定）」だけが現在進行中の施策となっています。ドナー登録数の目標設定や登録の推進管理は1年以上経過しているのにまだ取り決められていません。遅々として進んでいないのが現況です。

しかし骨髓バンクが独自で取組んでいる若年層対策は、今までにない活動が展開されています。アイドルの4グループによる「ダイジナトコロ」のプロモーションビデオ（日本骨髓バンクホームページで閲覧可）による推進キャンペーンや、早稲田大学内のワークショップで若年層への重点的なドナークルフト施策を学生側から提案されたり、初めて骨髓バンクがラジオ番組のスポンサーとなり10月～3月までボランティアの声をお茶の間に届けたりと、若い人たちにも関心を持ってもらえる内容になっています。

次のプログラム「骨髓バンクの現状について」では、数字やグラフを使い骨髓バンクの現状が報告されました。ドナー登録者数は2012年をピークに減少が続いて

います。特に若年層のドナー登録者数が減少しています。年代別の登録者数を見ると、40代が40.3%、30代が32.6%で、肝心の20代は15.9%に過ぎません。そんな中、沖縄県では20代が30.2%、大分県は29.2%、高知県は26.4%と、若い人たちが積極的にドナー登録している県もあるのです。東京都は20代が11.4%と平均よりも若者の登録が少く、今後取組みが進んでいる県の状況を研究する必要があるようです。

次に「ドナーコーディネートの現状」が報告されました。現在、患者登録をすると、95%の確率でドナーとマッチしコーディネートに進むそうですが、実際の移植率は56.9%という厳しい現実です。コーディネート期間を短縮し最良の時期に移植できる環境をつくる事と、さらに多くのドナーを集める事が必要です。また、コーディネート開始時にドナー候補者へ郵送する開始シートの発送が、年間28,600件という莫大な数だと示されています。毎日100件程度の発送作業をおこなう大変な作業です。事務局の負担の大きさを感じた次第です。

最後の「ドナー登録会の運営と実施について」では、若年層対策の実例の紹介として大学の保健医療学部の学生を中心とした『広島国際大学骨髓バンク推進実行委員会「しずく」』代表の女子学生の方が、自分たちの活動内容を報告してくれました。地元の骨髓バンクボランティアと協力して、イベントや講演会などで骨髓バンクを広く知ってもらふことや、メンバー全員が「説明員」の資格を持ち、登録会の企画を練り、登録会を実行してドナーを募る活動をおこなっていること、将来の医療現場での経験に生かしていきたいと、決意表明をされました。

今回の東京会場は、研修会のしょっぱなという事もあり、骨髓バンクの職員も手探り状態のようでした。今後とも、じょうずに連携を取り、説明員の資格を大切に保持しながら、骨髓バンクの普及啓発をおこなってまいりましょう。（若木 換）

東京の会 「3月、4月定例会」 のお知らせ

3月28日（土）、4月25日（土）午後5時30分より

会場：全労済東京会館3階会議室

※JR新宿駅西口下車7分（新宿区西新宿7-20-8）

※地下鉄丸ノ内線西新宿駅下車1番出口徒歩2分

青梅街道新宿警察署向かい・「キャン☆ドウ」角入り右側

※5月定例会予定・5月23日（土）午後5時30分より

5月会報発送 「おりおり」のお知らせ

4月の「おりおり」はありません！

会報が隔月刊となったため、発送作業も奇数月のみとなります。

5月9日（土）13時00分より

※13時までは品川運輸さんが使用されています。13時以降にお越し下さい。

場所：品川運輸・4階会議室（品川区東大井2-1-8）

JR大井町駅徒歩8分・京浜急行鮫洲駅徒歩2分

※今お読みになっている「東京の会通信」を約500部折って封入して発送します。簡単な誰にでも出来る作業です。いつも人手が足りません。どうかご協力を。

※7月「おりおり」予定・7月4日（土）13時00分より

新しい方大歓迎です。お気軽においで下さい。お待ちしております。

2人の娘達にもらった感動と諦めない気持ち(後編)

大浦幸一さん

前編の概要：骨髄バンクに登録して半年ほどで最初の適合通知を受け取るもコーディネート終了。2度目の適合通知は提供に至り、「関東地方に住む10代の女性」の患者さんへ。お二人のお嬢さんを持つ大浦さんは、元気になった「3人目の娘」から手紙を受け取り心からの喜びを味わいます。更に3回目の適合通知が届きますが残念ながらコーディネート終了に。そして……

通常ならここで終わりだったのですが年の明けた2014年1月、コーディネーターさんから直接電話が掛かってきて「ん？なんだろう」と思い話を聞くと……「エーッ！本当ですか？エーッッ！！」驚きの展開。

「実はまた新たに適合しました」4度目の適合です。「こんなことってあるんですか？」と思わず聞いてしまい、「長年コーディネーターやっていますが、こんな短期間でというのは初めてです」とコーディネーターさんも驚いた様子。骨髄バンクに登録して4年で4回目の適合、なんて人気のあるHLA型なのだろう。

もちろん私には全く迷いがありませんでした。ここまで望まれて無下に断ることなど毛頭なかったです。今回の患者さんも前回同様、元気に社会に復帰させてやりたい、その一心で引き受け2月上旬には最終同意しドナーに決定しました。

最終同意の時、調整医の先生に思っていた疑問を投げかけてみました。「こんなに適合するのは多いタイプのHLA型だからでしょうか？」と聞いたところ、「逆かもしれませんね」との返答。確かに多い型であれば若い人から選ばれるでしょうから、こんな50過ぎたオジサンをわざわざ選定することもないですね。

今回の患者さんは『中部地方の20代女性』。またしても自分の娘と同年代。ヨシ！4人目の娘だ、また元気な骨髄液を提供するぞ！と再度新たな決意。自己血採血し入院を待つだけの頃、採取時期を延期して欲しいと連絡がありました。これは事前説明も受けていたので、患者さんの都合最優先で待ちます。

いよいよ入院の日、今回も元気に入院。不思議と2回目の方が近づくにつれ緊張。一昨年経験済みなで持ち物など工夫し、暇つぶしできるよう準備万端で入院（笑）。またもや名前を呼ばれて覚醒。病室に運ばれて腰を動かしてみると「前回と同じだ、うんうん変わりない」と変に納得。前回と違ったのは部屋に戻っ

て直ぐに看護師さんが手紙を渡してくれました。

「患者さんからにしては早すぎるなあ」と読むと、骨髄液提供に感謝を記した移植病院

の医師と看護師の方々からの手紙でした。思いもよらぬサプライズで腰の痛みもどこかへ行っちゃいました。「今度も頑張れよ！オレの骨髄液、4人目の娘を頼むぞ！」

移植が終わって2ヶ月ほど経った頃、患者さんから手紙が届きました。手紙にはなんと「小さな子供がいる」とあり、親子3人で生活できる喜びと未来に参加できる希望が綴られていました。この患者さんにも提供できて心から良かった、一緒に孫まで出来た気持ちです。

それからしばらくして早くも2通目の手紙が届きました。たった2回しかできない手紙のやり取りを我慢できず近況を知らせてくれました。最初の手紙の返事に「今回は2回目の提供で、1回目の患者さんはもうすぐ学校へ通う」と書いたら、「自分もすごく自信がついた」とのこと。さらに「入院中離れていた娘と一緒に過ごし、ママに戻れたことがとても嬉しい」と記されていました。ご家族からの手紙には、病気が再発で心折れる気持ちだったのが無事に退院できた喜びなどが書かれていました。彼女達から受け取った4通の手紙は 生涯私の宝物となりました。

後で知ったのですが、移植は患者さんにとって一番良いタイミングで行うのが非常に成功の確率が高くなるとのことで、入院が延期になったのもそのタイミングを合わせるためであったのだと思います。今でも骨髄液を提供した2人の娘は元気でエンジョイしてくれていることを願います。この娘2人のドナーになるべくしてなったのだと確信しています。

私は2回の提供でもう提供が出来ません、若者達、あとは任せた。



命を分かち合う喜び

佐藤貴雄さん

Message from Donor

私と骨髄バンクとの出会いは今から21年前の1993年12月、近隣の保健所へエイズ検査を受けに行った時のことでした。

その2年前、大好きなミュージシャン「クイーン」のボーカリスト、フレディ・マーキュリーがエイズによる気管支肺炎で45歳という若さで亡くなりました。93年からはサザンオールスターズの桑田さんたちを中心に、日本でも「アクト・アゲインスト・エイズ」というコンサートが実施され、エイズに関する啓発活動も行われているのでご存じの方も多いかもかもしれません。クイーンもサザンも大好きだった当時の私はそんなことに触発され「よし、エイズを語るにはまずエイズ検査だ」と思い立ち、エイズ検査を受けたというわけです。と言っても別に何か身に覚えがあったわけでも心配事があったわけでもありませんが、そこで目にしたのは骨髄バンクのパンフレットでした。

これくらいのことなら簡単だねと、翌週（93年12月20日）赤十字血液センターでドナー登録をしてから7年の時が過ぎ、登録していることさえ忘れかけていた2001年の正月明けに「HLA適合のお知らせ」が来ました。

7年の歳月はさまざまなかたちで人々の生活環境に影響を及ぼします。当時はバブル経済が崩壊し、地方都市にも景気の低迷が波及し始めていた頃でした。自営業を営んでいた私が検査や入院で仕事を休むことは、即お客様を失うことにつながります。骨髄ドナーとなり人の命を救う一助になれるという崇高な想いは、お店の売り上げ減少と健康な肉体に全身麻酔というリスクをとまう、はたから見たら決断しにくい選択だったような気がします。では、そんな私の背中を押してくれたのは一体何だったのでしょうか。

当時の私の家族は、妻ともうすぐ幼稚園に入園する長女が一人。家の事情で希望する大学進学も叶わず、家業の4代目として実家の仕事を継いだものの、不満不満ではない何かしらの気持ちを抱えながら毎日を過ごしていたように思います。そんな時に降ってわいたような骨髄ドナーの話です。「こんな私でも人の役に立てる」いや、そんな純粋な気持ちではなかったですね。「なにか世のため人のためになるようなことをするのがかっこいいかなあ」これも違う。「生まれてきてくれた我が子に、いろいろなものを犠牲にしてまでも

見ず知らずの人の命を救うことが、父親としてかっこいい背中を見せられるのかな」なんていう、単純に自己満足気分を得ようと思っていただけなのかもしれません。

そんな私のところに2度目のチャンスがやってきたのが3年後の2004年。同様にドナー登録をしている妻も快く同意してくれて、2度目の骨髄提供も無事終わりました。その日、妻が病院に駆けつけると玄関から赤十字の袍を持った男性が出て行くところだったそうです。思わず「それはもしかして骨髄採取の…」と言いかけたところで男性が「そうです。ドナーさんのご家族ですか、ありがとうございます。」との感謝の言葉をいただいたと、麻酔がきれた私に語りかけてくれました。

いまの日本では、生涯で骨髄ドナーになれるのは家族の場合を除くと2回だけ。なので私の登録は保留状態にあり、残念ですが3回目はできません。次にできることを考えていきましょう。現在私は家業である理容業を営むかたわら、群馬県安中市の市議会議員をしています。また、ドナー経験を何かに活かしたいとの想いから群馬県骨髄バンク推進連絡協議会にも参加させていただき、小学校のPTA活動や地域の地域づくりにも関わっています。折に触れドナー経験の話をしたり、ドナー負担を軽減することにより骨髄移植数の増加を目指せるような行政のバックアップができる仕組み作りとして、県を巻き込んだ骨髄ドナー助成制度の創設にも奔走しています。先日はPTA関係の講演会で、現在は全国骨髄バンク推進連絡協議会顧問である大谷貴子さんと知り合うことができました。こうした出会いを通じて、一人でも多くの方に骨髄ドナーの何たるかを知っていただき、一人でも多くの患者さんを救うお手伝いができればとの思いで活動しています。

一人ひとりとは微力でも、みんながつながることによって生きるチャンスを提供できる喜びを教えてくれた骨髄バンクに、心から感謝をしている一人です。



編集者 雑記



▼若者の献血が減り続けています。日本赤十字社のウェブサイトによると、2004年に約188万人だった10～20代の献血者数は、2013年には約127万人と10年間で32%も減少したそうです。ただでさえ少子高齢化で若年層が減少している上に、若者の「献血離れ」が進んでいるというのです。

▼一方で、輸血（血液製剤）を必要としている患者の8割以上は50歳以上です。その主な病気は、がん、心臓病、肝疾患、そして私たち骨髄バンクのボランティアとかかわりの深い白血病や再生不良性貧血などの血液疾患です。これらの病気は高齢になるほど発症率が高いのです。血液疾患の治療に輸血は欠かせません。

▼このまま少子高齢化が進み、若者の献血離れに歯止めがかからなければ、2027年には85万人分の血液が不足するという推計があるそうです。いや、すでに今年2015年に5万人分の血液が不足するという予測もあります。なぜ若者の献血が減っているのでしょうか。

▼ひとつは献血が身近なものになっていないということがあります。学校の週休2日制によってカリキュラムがタイトになり、学校で献血について学んだり、学校に献血車が来て実際に体験したりする機会が減っているそうです。このため「怖い」「痛い」というイメージを持つ若者や、そもそも関心がない若者が増えているのかもしれない。

▼また、ネットでは若者の献血離れについて「年金や介護などの社会保障費の負担だけでなく、血液まで高齢者のために提供しなければならないのか」など反発の声も出ています。もちろんこれは一部の声です。ただ、社会構造として、高齢者を若者が支えなければならないのは、年金も献血も同じだというのはごまかしようのない事実です。

▼ところが、その支える側の若者は、就職難や非正規雇用の拡大で経済的・時間的・精神的な余裕がありません。一方で高齢者はお金を貯めこんでいるとか、高齢者ばかり優遇されているとか、若者の被害者意識が強いため、そんな

発言が出るのでしょう。

▼ボランティアや寄付は一定の余裕がなければできないし、献血も同じです。政府も企業も私たち大人も、若者に「求める」だけでなく、若者が「がんばれる」社会にしていける責任があります。それができなければ、日本は高齢化社会のピークを乗り越えられないかもしれません。

▼しかし、このまま手をこまねいているわけにはいきません。まずは若者に献血について知ってもらい、関心を持ってもらうことが重要です。東日本大震災の際のボランティアのように、若者はきっかけさえあれば、社会貢献活動に参加する意欲を持っているのです。

▼地域の日赤と自治体が連携し、学校での献血教育を進めているところでは、10代の献血者が増えているという事例もあります。国も長期的ビジョンと具体的な政策を明らかにし、大胆な予算措置を行うべきです。

▼たとえば、日赤では毎年1月～2月に「はたちの献血」キャンペーンを行っており、今年はフィギュアスケートの羽生結弦選手がキャンペーンキャラクターを務めています。テレビCMや街頭ポスターなどの露出度があまりに低い気がします。国からどれくらい補助金が出ているのかわかりませんが、もっと大々的に若者に対する献血の啓発を推し進める必要があるのではないのでしょうか。

▼そして、献血と全く同じ危機が骨髄バンクのドナー登録にも迫っています。骨髄提供は献血の何倍もハードルが高い上に、提供可能な上限年齢も献血より低いので、少子高齢化の影響をより大きく受ける可能性があります。

▼日本骨髄バンク（財団）では、アイドル4グループが歌うオリジナルソング「ダイジナトコロ」のビデオをウェブサイトやYouTube、街頭ビジョン等で3月まで公開しています。ネット上の評判はいいようですが、閲覧数や若年層の評価など効果測定結果を知りたいものです。なお、7月からはACの骨髄バンクCMが復活するそうです。

▼私たち東京の会も日赤や献血ルームとの連携を深め、献血と骨髄バンクドナー登録を同時に推進していきたいと思っています。そしてまずは自分のできることから。近いうちに私も献血に行きます。読者のみなさんも、献血ができる方はぜひ献血に行きましょう。そしてご家族や友人、特に若い人に献血を勧めましょう。 (S)

東京ドナー登録会予定(3月)

3/11(水) 赤羽駅東口(北区)

心のこもったご寄付ありがとうございました。(2014.12.16～2015.2.15)

及川耕造さん 40,000円／丸尾悦子さん 10,000円／山本重人さん 3,000円／野澤桂子さん 10,000円
 山崎治夫さん 7,000円／西郷京子さん 10,000円／伊藤史郎さん 3,000円／小松美穂さん 7,000円
 棚原由記子さん 10,000円／仁野明人さん 2,000円／白水 豊さん 2,000円／東井朝仁さん 10,000円
 岡野憲嗣さん 10,000円／坂本孝子さん 7,000円／三品雅義さん 7,000円／若木 換さん 4,000円
 名川一史さん 2,000円／三瓶和義さん 2,000円／穴戸知美さん 2,000円／手塚春枝さん 2,000円
 向井陽美さん 5,000円／朽崎賢三さん 5,000円

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費(年3,000円)を差し引いて掲載させていただきました。